

令和5年度（2023年度）
第2回熊本市公民館運営審議会

別冊資料



熊本市公民館

目 次

令和5年度（2023年度）重点事業 実践事例

ページ

（１）学習機会（公民館講座）の充実 1

- ① 大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施 . 3
- ② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施 7
- ③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施 . . . 12
 - * 県・市ろう者福祉協会、障がい福祉課と連携した手話講座の実施（各区1館）・ 15
 - * 人権教育・啓発関連「講演会」「講座」等の実施状況（予定含）. 16
 - * 人権コラム ホッと♡スペース 28

（２）地域の教育力を高め合い、まちづくりにつながる事業の推進 33

- ① 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施 35
- ② ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供 42
- ③ 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充 47

（３）ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実 49

- ① 年齢や障がいの有無、国籍等に関わらず、誰もが学びの場を得られるよう
多様な媒体を用いた情報提供及びそれぞれのニーズを踏まえた講座の実施 . . 51
- ② 幅広い世代の交流を図る講座の実施 52
- ③ ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施 59

令和5年度(2023年度)重点事業

(Ⅰ) 学習機会(公民館講座)の充実



① 大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関(NPO等)

と連携した講座の実施

② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

*県・市ろう者福祉協会、障がい福祉課と連携した手話講座の実施(各区1館)

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 ＜ 秋津公民館 ＞

講座名	おでかけ公民館「視覚障がいについての理解と点字体験」（総合的な学習の時間）	
日時	令和5年（2023年）6月21日（水） 10：55～12：25	
場所・参加者数	秋津小学校 体育館	秋津小4年生99名
取組の重点	①大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関（NPO）等と連携した講座の実施	
内容	「一般社団法人 Vision Support」から2人の方（お一人は視覚障がいを持つ方）に来ていただき、「視覚障がいを持つ方が普段どのようなことを不安に感じているのか。また、視覚障がいを持つ方との接し方や案内の仕方」について講話をしていただいた。そのあと、子どもたち一人一人に点字盤を配り（熊本県点字図書館から借用）、点字体験をしてもらった。 「一般社団法人 Vision Support」は、視覚障がいと学習障がいを専門とし、児童発達支援と放課後等デイサービスを行う施設「こころめ」を運営。	
成果と課題	○普段接する機会の少ない視覚障がいを持つ方のお話を聞くことができ、視覚障がいを持つ方の思いや、どのようなことに気をつけて介助すると良いのかをこどもたちは具体的に学ぶことができた。 ○実際に一人一台ずつ点字盤を使って文字を打ち、視覚障がいを持つ方に読んでもらう体験を行ったことにより、視覚障がいについての学びが深まった。 △こどもたちの意欲が高く、介助体験や点字体験の時間が足りなかったのも、もっと余裕が持てるよう、時間をとるべきだった。	


講話の様子


介助の仕方の説明


点字盤の使い方の説明

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 ＜ 南部公民館 ＞

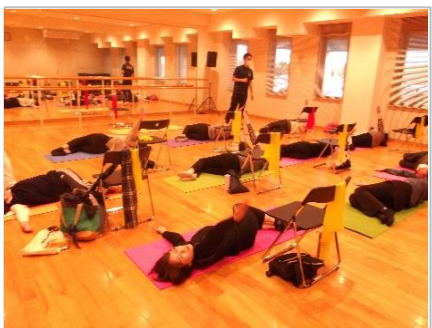
講座名	楽しく体験！環境学習とエコ工作。限りある資源を大切にしよう！	
日時	令和5年8月5日（土） 午後1時 ～ 午後3時	
場所・参加者数	南部公民館 A会議室	15組
取組の重点	①大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関（NPO）等と連携した講座の実施	
内容	熊本市環境総合センターを招聘しての出前講座。 紫外線の学習でのUVストラップ作りと廃プラスチックを活用したエコ万華鏡作りを行った。 まず、プラスチック製品ができるまでの仕組みを学習し、ペットボトルを使用した万華鏡を作成した。フィルムや色をつけた廃プラスチックなどを中に入れた。 紫外線の学習では、目に見えない紫外線だからこそ気を付けないといけないことや紫外線で手の汚れが見えたり便利なこともあることを学習した。	
成果と課題	○夏休みに企画した講座で、自由研究の材料としてもとてもいい講座で、25組の応募があった。 ○子どもたちにもわかりやすい内容で、身近に使う材料であったり、体験したことある内容だったりしたので、すぐに理解することができた。 △参加者の年齢幅が大きく、小学生高学年ならばすぐに作れることも、低学年にはとても時間がかかる内容になった。小学生の講座も低学年と高学年に分けて講座を開いてもいいのかなと感じた。 △25組に対して2人の講師では、すべての講座生を把握することが難しい。社教主事講習の方にお手伝いいただいて、スムーズに進めることができた。	
 お話に合わせて、手作りおもちゃを使う。このおもちゃは後で子どもたちにプレゼントされた。		

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 幸田公民館 >

講座名	ベビーからのイングリッシュ
日時	令和5年9月14日・20日・28日・10月4日・10月12日・18日・26日 11月1日・9日・15日（午前10時～12時）
場所・参加者数	幸田公民館 和室 対象：0歳～1歳未満と乳幼児（10組20人）・1歳～3歳未満幼児と保護者（10組20人）
取組の重点	①大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関（NPO）等と連携した講座の実施
内容	0歳～1歳の乳幼児対象、1歳～3歳未満の幼児対象の英語講座を10回シリーズで実施した。講師は、こども文化会館で「ベビーからのイングリッシュ」を5年間講師をされている渡邊ドリーナマリア先生【こども文化会館（関係課）と連携した講座の実施】 「こども文化会館で開かれる『ベビーからのイングリッシュ講座』が応募者多数のため、抽選で講座を受けられないので幸田公民館で講座を開設してほしい」との依頼がきっかけとなった。 言語能力に関しても、ある一定の発達の時期を越えると身につけることが難しくなってしまう、バイリンガルの神経回路というのは乳幼児の時期に発達するので、言語に触れることは年齢が低いほど理想で、神経回路を発達させることができること。共生社会に向けて、幼い頃から、英語にふれ、これからの子育てに役立てられることを狙いとして開設した。
成果と課題	○若い世代20代から30代（保護者と幼児対象）の公民館講座のため、公民館の認知度を上げることができた。 ○外国人講師の英語講座で、生きた英語を体感する機会となり、「こどもが、家で英語の歌を口ずさんだり、英語の単語を話していたので覚えが早いことにびっくりした」「楽しくて、とてもよかった。こういう講座は少ないので来年も是非開いてほしい」との声が、多数聞かれニーズの多さを認識した。 △定員に対し2倍を超える多数の応募があり、抽選で、どうしても講座を受けられない方が出てしまうことが課題である。
	

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 ＜ 城南公民館 ＞

講座名	リフレッシュ！ シニア健康運動教室	
日時	令和5年11月30日（木）	
場所・参加者数	火の君文化ホール内 城南公民館（リハーサル室）	10人
取組の重点	①大学や高校等の教育機関、関係課や関係機関（NPO）等と連携した講座の実施	
内容	一般財団法人 熊本市文化スポーツ財団より、理学療養士の講師を招聘して、シニアの方（50歳～）対象に講座を開催した。 シニアの方の「筋力トレーニング」「ストレッチ」「バランストレーニング」など、体力や運動機能の向上や健康維持・保持増進等を目的に日常で簡単に実践できるトレーニング方法等に関する指導を実施した。	
成果と課題	◇まず始めに、自己診断チェックから、握力や筋力チェック等、数値や回数で具体的に自己評価・振り返りができるデータ・結果をもとに、各自自分に適した体の動かし方・トレーニングのあり方を考えていく時間の設定があった。皆さん、自分に無理のないあり方を真剣に考えて取り組んでいた。 ◇直立、椅子に座りながら、またマットを使用して、音楽をかけて楽しく体を動かしながら、皆さん、無理のない体の動かし方を楽しんで取り組んでおられた。 ◇季節的にも寒くなり、室内にこもりがちな時期ということもあって「思いっきり公民館に赴き、体を動かすことができ気持ちよかった」「無理なく自分に合ったトレーニング法を指導してもらって、日常的に継続できそうだ」「是非、定期的にこのような講座を設けていただきたい」等、肯定的なご意見をいただいた。	

		
〈まず、健康についての理論 や説明についての話から〉	〈活動の様子①〉	〈活動の様子②〉

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 中央公民館 >

講座名	おでかけ公民館講座「こどものための防災キャンプin城東小」	
日時	令和5年9月30日（土）～10月1日（日）	
場所・参加者数	城東小学校体育館及び校庭	児童13人、大人29人 計42人
取組の重点	②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	
内容	こども主体の防災訓練で、事前ミーティングを経て「ミッションクリア」をめざすゲーム感覚の防災キャンプを行った。防災ゲームや炊き出しの体験、夜のお楽しみ会など楽しく学ぶことができた。内容の詳細として、こどもミーティング、防災ゲーム、4つのミッション（避難所設営、支援物資の配給管理、炊き出し、健康管理）、夜のお楽しみ会、就寝体験、目覚めのリラックス体操、朝ご飯（サバイバル飯炊き）、反省会。 講師や支援者は、防災士やPTA、中央公民館関連企業（熊本シティエフエム）、地域のボランティアが担当した。	
成果と課題	○成果として ・事前ミーティングを2回行い、防災についての興味関心や知識を高めたうえで防災キャンプを実施したので、こども達の戸惑いは少なかった。 ・災害時に対応が迫られる内容を「ミッション」として位置づけ、ゲーム感覚でキャンプを進めたので、こども達の意識も継続し、飽きることなく活動を進めることができた。防災学習の目的である「自分で考え、行動する」は十分達成できた。 ○課題として ・公民館側の関わり（事前計画、全日程への参加など）をもっと増やしたい。	
 避難所設営ミッション  サバイバル飯炊きミッション		

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 大江公民館 >

講座名	中央消防署出動！ 「何倍も楽しくなる防災訓練の巻」	
日時	令和5年11月11日（日）	
場所・参加者数	大江公民館 大ホール、プロムナード、駐車場	70人
取組の重点	②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	
内容	小学4年生～6年生を対象に、4つのグループに分けて防災について学習し防災意識の向上を図ることを目的とする。 Aグループ：心肺蘇生法体験の部 Bグループ：VR体験（台所火災の消化体験等） Cグループ：防火着衣体験、消防車両見学 Dグループ：水消火器訓練、簡易担架作製体験 ＊各グループを15分サイクルで移動する。	
成果と課題	参加者の感想から ○心臓マッサージやAEDのやり方を教わりうまくなってきた。 ○将来の夢が1つ増えた。（消防士になってみんなを助けたい） ○はしご車、化学車、レスキュー車、救急車とかたくさん車があって驚いた。いつも守ってくれてありがとうございます。 ・中央消防署ご協力で車両7台、消防署員約20人の方々が子どもたちに懇切丁寧にいろいろな体験を指導していただいた。防災意識の向上と共に、命の大切さについて考えるこどもたちもいた。	



水消火器訓練様子



簡易担架製作訓練の様子



心肺蘇生法訓練の様子

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 西部公民館 >

講座名	親子でパッククッキング	
日時	令和5年8月26日（土） 10時～13時	
場所・参加者数	西部公民館 調理室	5組
取組の重点	②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	
内容	鍋一つと水、コンロで作ることができるパッククッキング。大規模災害の際には一躍有名になったが、普段から作りつけておかないと、いざというときに役に立たないかもしれない。レシピ自体も簡単なもので、数種類のおかずも一緒に作ることができるので、関東大震災から100年の節目である防災の日に近い週末に、親子で考えてもらうために計画した。	
成果と課題	「パッククッキング」という名称が、あまり浸透していなかったようで、6組の募集に対して、応募者数が下回った。講座名にひと工夫しなければならなかったと反省している。 受講者の感想として、「鍋一つでこんなに何種類も作れるとは思わなかった」「メニューが分かっていたら、もっと応募者が増えたのでは？」といった意見が聞かれたが、満足度の高い講座となった。	



【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 花園公民館 >

講座名	市民企画講座「防災力アップ焚火体験」	
日時	令和5年11月19日（日）午後3時～午後6時	
場所・参加者数	花園公民館ホール、五丁目公園	36人
取組の重点	②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	
内容	マスターズ熊本の主催する市民企画講座として開催。防災士とキャンプインストラクターの指導で、焚火体験に取り組んだ。火を扱う際の注意点や防災時に調理する方法を学び、親子でそれを実践した。公民館は実施において事前に消防署に焚火をするための認可を受け、西部土木センターに公園の使用許可をもらい、当日に臨んだ。 消火用の水、防火シートの使用、必要な人員の配置等、安全には特に注意を払った。	
成果と課題	参加した親子は焚火体験の中で火おこしや調理を通して防災に関する知識を学んだり、防災意識を高めることができた。楽しく取り組み、よい体験になった。 また、日頃の自分たちの取り組みにも生かしてもらえたと願い、地域の自治会の方々にも見学に来てもらった。実施にあたっては、地域の理解を得るために十分な周知を図らなければならないこと、もしもの時のための対策と準備を入念に行うことが求められる。 今後、この取り組みを防災意識を高めるためにどう発展させていくかが課題だ。せっかくの講座も一過性のものになってしまうのは惜しい。	



【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 龍田公民館 >

講座名	簡単に作れる防災食	
日時	令和5年6月10日（土） 午前10時～午後1時	
場所・参加者数	龍田公民館 調理実習室	7人
取組の重点	②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	
内容	災害時に、ポリ袋に具材を入れて簡単に作ることができる「バッククッキング」についての学習と調理実習。災害時の食事は「保存食」をイメージしてしまいがちだが、保存食に頼らなくても、身近な材料をうまく利用する方法を学ぶ。 また、災害時は水がとても貴重になる。限られた水、限られた調理道具、調理環境の中でも、なるべくおいしくあたたかい料理を食べることができる方法について学ぶことで、震災での体験や教訓を語り合い、防災意識を高める。	
成果と課題	○「防災食」というタイトルをつけたことで、参加者の防災に対する意識の向上につながった。 ○親子での参加もあり、保護者が子どもに対して経験を語る場面もあった。 ○参加者がおどろくほど、身近な材料で調理することができた上に、とてもおいしかった。 △参加者の募集が大変困難だった。個人単位で募集することだけでなく、家庭教育学級や子ども会など、地域の団体に呼びかける必要があった。	



お湯につけて調理している様子



調理した料理を試食

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 ＜ 託麻公民館 ＞

講座名	「人権バンド ゆう」コンサート	
日時	令和5年10月7日(土) 10：00～12：00	
場所・参加者数	託麻公民館 ホール	56人
取組の重点	③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
内容	○人権バンドゆうのメンバーの人権課題に直面した時の体験談や思ったこと、出会った人々を通して考えたことなどを話や歌を通して語りかける。 ・ 高齢者の人権 ・ 水俣病患者の人権 ・ ハンセン病元患者の人権 ・ 子どもの人権	

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 北部公民館 >

講座名	熊本市北部公民館人権啓発講演会「歌舞伎町と言う町に寄り添う」 ～あらゆるいきづらさを持つ人たちと向き合う夜回りと相談室の話し～	
日時	令和5年（2023年）8月19日（土） 午前10時～正午	
場所・参加者数	北部まちづくりセンター・公民館 2階 大会議室	90人
取組の重点	③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
内容	「歌舞伎町と言う町に寄り添う」～あらゆるいきづらさを持つ人たちと向き合う夜回り と相談室の話し～という講演テーマのもと話を聞く中で、参加者も、自分の事と重ね ながらしっかり考えることができた。 講師の渡邊さんが関わられている青年をゲストに迎え、少年院時代や現在の仕事のこ と、将来の目標等についての話を聞いた。当事者の生の声だったので、参加者もとても 真剣な表情で話に聞き入っていた。	
成果と課題	成果としては、参加者一人一人が自分のくらしと重ねながら聞くことができ、講演 後、参加者からは「心温まる良い講演会だった」「これからも、是非こういう講演会を お願いしたい」など、多くの好評の声を聞くことができた。 課題としては、参加者が、今回学び得たことを如何にしてこれからのくらしの中で活 かしていくのかということにある。高まった意識が低下しないように、計画的に人権啓 発の取組を行っていきたい。	



〈講演会全体の様子〉



〈スライドを使って説明されて
いるところ〉



〈渡邊さんが関わられている
ゲストの青年の話〉

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実
 < 植木公民館 >

講座名	植木公民館主催「おでかけ公民館講座」 「長崎原爆被害のお話し いま私が伝えたいこと」	
日時	令和5年11月17日（金）	
場所・参加者数	桜井小学校	小学6年生26名 保護者1名 教職員3名
取組の重点	③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	
内容	当時、国鉄職員として長崎市内で勤務されていた深堀弘泰さんの体験を聴き、平和の尊さを学ぶ。深堀さんは、長崎で被爆し、爆心地に向かう第一救援列車の乗員として地獄のような体験をされ、さらに爆心地近くに自宅があったため、大切な家族を失われた。 語り部の工藤さんは、同じ長崎の被爆者。自分の体験談も交え、深堀さんの体験を「祖父が孫に語る」というストーリーの紙芝居で、平和の尊さ伝えていただいた。	
成果と課題	【成果】 講演の感想として次のようなことを書いていた。 ・ 原爆が落とされてたくさんの人が犠牲になったのにも関わらず、現在も世界で戦争が起きているから、原爆の被害者も、現在も戦争で苦しんでいる人が一日でも早く報われたらいいと思う。しかし、自分たちには戦争をやめさせる力、核兵器をなくす力がありませんので、だから、まずは自分のクラス、それから学年、そして学校全体を幸せに、笑顔いっぱいにしていきたい。 【課題】 ・ 語り部の方も年々高齢化しているため、早く被爆者の方から直接、戦争の悲惨さ、原爆被害の悲惨さ、平和の大切さをお聞きしなければならないと考える。今後も、継続して実施していく必要がある。 ・ 語り部の継承の支援も公民館として行っていく必要があると考える。	







【講師 工藤 武子 氏】

【紙芝居の様子】

【講演の様子】

【研究グループ①】 学習機会（公民館講座）の充実

< 五福・東部・西部・幸田・植木公民館 >

講座名	初級手話講座	
日時	令和5年6月～ 各公民館 全10回	
場所・参加者数	各公民館会議室	東部23人 西部16人 植木17人 幸田21人 五福27人
取組の重点	県・市ろう者福祉協会、障がい福祉課と連携した手話講座の実施（各区1館）	
内容	これまでも各公民館独自での手話講座を開催していたが、より広く手話に関する理解と関心を深めていただきたいという思いから、全5区で県・市ろう者福祉協会と連携した初級講座を実施した。（各区1館 全10回） 初めて学ぶ人のために基本的な内容から体系的に学べるような内容を各講師で考えていただいた。回数を重ねるに従い、受講生同士、受講生と講師のつながりができ、温かい雰囲気の中で学習が進んでいった。後半は、お互いに簡単なコミュニケーションを楽しむまでに上達されていた。	
成果と課題	【参加者の感想から】 ・手話を初めて学んだが、ついていける内容で良かった。先生の教え方が分かりやすくておもしろかった。今後も学んでみたい。 ・ドラマを見て、手話を習いたいと思っていたが、きっかけがなくなかなか習得することができずにいた。今回このような講座に参加でき、少しは表現力を身につけることができたと思う。 10回は少ない。またこのような機会があれば参加したい。 ・毎回楽しく参加させていただいた。手話でたくさん話しながら長期的に学べる場がほしいので、長めの講座を企画していただきたい。講師の先生もよかったので、参加できてよかった。もっとこのメンバーで楽しみたかった。 ○学習内容の理解については、ほとんどの受講生が「理解できた」という回答を得た。回数については、3割強が「少なかった」という回答であった。 ○十数名の受講生が10月の全国手話検定を受検された。次年度の手話奉仕員養成講座を受講してみたいという受講生も見られた。 ○次年度も同様の講座を各区で開催する予定（大江、託麻、河内、富合、北部） 障がい福祉課と連携したレベルアップ講座の開催や県・市ろう者福祉協会が行う学習会の案内等、学習の継続支援を行っていきたい。	



東部 6/2～9/29



西部 6/13～10/3



植木 6/14～10/4



幸田 6/16～8/25



五福 10/5～12/21



講座案内表示



令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師(所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
中央	7月11日 ～8月8日 (全3回)	講座	心の気づき 傾聴講座	大村 香澄さん (傾聴カフェ花ことば)	相手に寄り添い、言葉を傾け、プラスに評価しながら話を聞くことを学ぶ	その他		市民(20人)
大江	11月1日	講演会	おでかけ公民館 ハートフル講演会 「水俣を知らう」	三枝 三七子さん (絵本作家)	絵本作家の三枝さんに水俣の事を聴き、環境から始まり、人の生き方等を考える	水俣病をめぐる人権		帯山西小学校5年生 職員(5人) 保護者(6人)
五福	8月24日	講演会	おでかけ公民館講座 五福小学校ごふく教室親の会研修会 「発達障害『あるある』を語り合おう ～「ほわっと」できる子育てのはなし～」	荒木 敏代さん (ほわっと)	発達障害を持つ子どもの家庭における親子の関わりの姿から、よりよい言葉かけや働きかけについて考える。	障がい者の人権	五福小学校ごふく教室 五福小学校ごふく教室親の会	五福小学校ごふく教室 親の会 五福小学校教職員
五福	9月25日	講演会	ハートフル講演会 春竹小学校 「水俣病をめぐる人権について」	杉本 肇さん (水俣病資料館語り部)	水俣病の実態を後世に伝える語り部の方から、水俣病についての正しい知識や水俣病患者自身や患者を抱える家族の実際について話を聞くことにより、その場にいた方々の思いに寄り添い、今の自分にできることを考える契機とする。	水俣病をめぐる人権	春竹小学校	春竹小学校5年生 春竹小学校教職員
五福	10月5日 ～12月21日 (全10回)	講座	初級手話講座	岡本 恭典さん (熊本市ろう者福祉協会)	日常生活で使える初歩的な手話の学習。講師に当事者の岡本さんを迎えて講座を行った。聞こえない岡本さんから学ぶことは多くある。聞こえる参加者と講師及び手話通訳者の心の交流を図る。	障がい者の人権	熊本市ろう者福祉協会	市民(27人)
五福	11月2日	講演会	ハートフル講演会	三枝 三七子さん (絵本作家)	水俣病の学習を通して環境問題、人権問題について調べたり、考えるきっかけとする。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	五福小学校5年生 保護者、教職員 (50人程度)

令和５年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
五福	11月25日	講演会	スマホの向こう側 ～インターネット世界にSOSを出す子供の理解と対応～	田中 慎一朗さん (帯山中学校教頭)	今、子供が直面している課題（特にSNSを中心に）に対して、大人がどのように関わっていけばよいのか、その具体例をもとにして考える機会とする。	インターネットによる人権侵害		市民(10人)
中央 大江 五福	3月16日	講演会	中央区公民館合同 人権教育啓発講演会	矢野 大和さん (口演家)	落語を通して、人権についてわかりやすく学び、人権意識を啓発する。	人権全般	熊本市人権啓発市民協議会	市民
託麻	10月7日	講演会	「人権バンドゆう」コンサート	人権バンドゆう	人権バンドのコンサートを鑑賞することを通して、人権についての理解を深める。	人権全般	人権教育指導室	市民
託麻	10月25日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語りをとおして、水俣病についての理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	健軍東小第5学年児童及び教職員、地域住民 (52人)
秋津	6月21日	講座	おでかけ公民館 「視覚障がいについての理解と点字体験」	石坂 啓さん (児童発達支援・放課後デイサービス 「こころめ」指導員)	視覚障がい者への声かけの仕方や補助の仕方について具体的に学び、点字体験を行った。	障がい者の人権		秋津小学校4年生
秋津	7月7日	講演会	家庭教育学級 「わが子に大好きを伝えたい ～家庭でできる性教育～」	中村 和可子さん (NPO法人 せいしとらんし熊本)	単なる生殖・月経の内容だけでなく、広く人権・安全・健康・コミュニケーションの視点からお話をいただいた。	子どもの人権		秋津公民館管内小中学校保護者
秋津	10月24日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語りをとおして、水俣病についての理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	秋津小学校5年生及び教職員 (105人)
秋津	10月30日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語りをとおして、水俣病についての理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	桜木小学校5年生教職員 (84人)

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師(所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
秋津	12月3日	講演会	ふれあい人権コンサート (講演会) 見えないけれど 心に響く歌を届けます	大山 桂司さん (シンガーソングライター)	講話を交えたコンサートを鑑賞することを通して、障がい者についての理解を深め、他の人権課題についても理解しようとする。	障がい者の人権		市民(97人)
東部	6月2日 ～9月29日 (全10回)	講座	初級手話講座	小野 康二さん (熊本県手話サークル わかぎ熊本グループ)	手話の初級講座。自己紹介に必要な挨拶や名前などの表現方法を学習する。	障がい者の人権		市民(23人)
東部	10月18日	講演会	戦争と平和	浦田 藤枝さん	戦争(被ばく)体験談を通して、戦争と平和及び人権についての理解を深める。	原爆被害者等 の人権	人権教育指導室	尾ノ上小第6年児童及び 教職員 (126人)
東部	10月24日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語りをおして、水俣病についての理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	健軍東小第5学年児童及び 教職員、地域住民 (51人)
東部	10月27日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語りをおして、水俣病についての理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	尾ノ上小第5学年児童及び 教職員、地域住民 (140人)
東部	11月2日～ 12月21日 (全5回)	講座	時代を切り開いた矢嶋家の人々	齋藤 輝代さん (著述家)	明治の時代に女性の地位向上のために尽力した矢嶋家の四賢婦人の生涯について学び、女性の人権についての理解を深める。	女性の人権		市民(28人)
東部	12月6日	講演会	「見えないけれど、 心に響く歌届けます」	大山 桂司さん (シンガーソングライター)	視覚障がいをもつ講師のコンサートを鑑賞することを通して、視覚障がいについての理解を深める。	障がい者の人権	人権教育指導室	健軍東小全児童及び、 教職員、 地域住民(280人)
東部	12月10日	講演会	「あなたの身近に 人権を考えるきっかけが…」	飯開 輝久雄さん (人権バンドゆう)	人権バンドのコンサートを鑑賞することを通して、人権についての理解を深める。	人権全般		市民(34人)

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師(所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
東部 秋津 託麻	3月2日	講演会	いまを生きる子どもたち ～なぜ？を考え、地域を支える～	西村 岳人さん (こどもL.E.C.センター)		子どもの人権	人権教育指導室	市民
花園	10月24日	講演会	ビーコは飛んでいった	久枝 隆子さん (劇団天然木)	ミュージカルを通して命のつ ながりや尊さについて考える。	人権全般	花園小学校	花園小学校児童 保護者、教職員 及び花園小校区住民
花園	10月31日	講演会	ハートフル講演会	三枝 三七子さん (絵本作家)	水俣病の学習を通して環境問 題、人権問題について調べた り、考えるきっかけとする。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	池田小学校5年生(68人) 保護者、教職員 及び花園小校区住民
河内	8月8日	講座	ボッチャ体験	陣内 和浩さん (天草青年の家)	オリンピック・パラリンピッ クの種目でもあるボッチャ。 競技を通じて、障がいに関わ らずに楽しめる競技を知る。	障がい者の人権	天草青年の家	地域の60歳以上の方 (32人) ＊生きがい学級
河内	10月31日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語り をとおして、水俣病について の理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	河内小5年生と教職員 (26人)
河内	2月1日	講演会	河内中学校立志式記念講演会	寺本 真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の働く子どもたちの 現状 を知り、子どもの人権 につい て考える機会とする。	子どもの人権	人権教育指導室 河内中学校	河内中2年生と教職員
河内	2月2日	講演会	芳野中学校立志式記念講演会	寺本 真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の働く子どもたちの 現状 を知り、子どもの人権 につい て考える機会とする。	子どもの人権	人権教育指導室 芳野中学校	芳野中2年生と教職員
西部	6月13日 ～10月3日 (全10回)	講座	初心者向け！手話講座	岡本 恭典さん 後藤 典子さん (熊本市ろう者福祉協会)	手話の初級講座。自己紹介に 必要な挨拶や名前などの表現 方法を学習する。	障がい者の人権		市民(16人)

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
西部	10月20日	講演会	三和中学校 第1回学校保健委員会 講話「よりよい対人関係のため に」	赤木 夏代さん	自分と周りの人との心理的な 距離を構築するのに役立つ 「アサーティブコミュニケー ション」を学ぶ。	人権全般		三和中学校全生徒
西部	10月24日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	絵本作家である講師より、水 俣病の公式確認に至る経緯や その前後の時代背景ととも に、水俣で暮らす人々の置か れている状況などを考えるこ とで思いやりの大切さを学 ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	池ノ上小学校5年児童
西部	11月1日	講演会	みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ	三枝 三七子さん (絵本作家)	絵本作家である講師より、水 俣病の公式確認に至る経緯や その前後の時代背景ととも に、水俣で暮らす人々の置か れている状況などを考えるこ とで思いやりの大切さを学 ぶ。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	高橋小学校5年児童
西部	11月17日	講演会	「こころスッキリ！からだスッキ リ！あたまスッキリ！ ～ゲームやスマホ、ルールを守っ て、いきいき元気に～	戸田 俊文さん (真和中・高等学 校)	S N Sによる被害や長時間操 作することによる健康被害を 知り、自らのスマートフォン に対する付き合い方を考える。 る。	インターネットによる人権 侵害		城山小学校5・6年児 童
西部	2月3日	講演会	竹崎順子と日本の女子教育	齋藤 輝代さん (著述家)	管内にある「竹崎公園」。そ こにある名前は女子教育に取り 組んだ竹崎順子先生である ことから、女性の人権につい て目を向けるとともに、地域 のことを知るきっかけとする。 る。	女性の人権		市民
花園 西部 河内	11月4日	講演会	西区三館合同 人権学習映画上映会及び講演会	佐藤 そのみさん (映画監督) 佐藤 敏郎さん (小さな命の意味を考える 会代表)	東北の震災のことを振り返り ながら、自分自身の「いの ち」や周囲の大切な「いの ち」について考える。	人権全般	熊本市人権啓 発市民協議会	市民
南部	4月11日～ (第2・4木曜日 全21回)	講座	手話入門	田中 みさ代さん (熊本県手話サークル わかぎ宇城グループ)	初心者向け手話講座	障がい者の人 権	熊本聴覚障害者 総合福祉セン ター	市民

令和５年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
南部	9月20日～ (全7回)	講座	傾聴ボランティア養成講座	大村 香澄さん (傾聴ネットキース テーション)	はじめての傾聴講座 傾聴の手法を学ぶ。	人権全般		市民
南部	10月27日	講演会	ハートフル講演会 「今を生きる私たちが水俣病を学 ぶということ」	三枝 三七子さん (絵本作家)	水俣について学習する。	水俣病をめぐ る人権	人権教育指導室	力合小学校5年生(95名) 保護者、地域の方
南部	11月17日	講演会	「落語っておもしろい！ 落語で語る人権の嘶 ～笑いは健康の源～」	粗忽家 勘心さん (ひなたの会)	落語を通して、人権とは何か を理解し、人権感覚の効用に 努める。	人権全般		市民
南部	11月17日	講演会	ハートフル講演会 「みんな違ってみんないい」	粗忽家 勘心さん (ひなたの会)	落語を通して、人権について わかりやすく、楽しく学び、 教養の向上・人権意識を啓発 する。	人権全般	人権教育指導室	城南中学校生徒 (約500人) 保護者、地域の方
幸田	6月16日 ～8月25日 (全10回)	講座	主催講座 手話講座～はじめての方へ～	田中 みさ代さん (熊本県手話サークル わかぎ宇城グループ)	手話の初心者を対象に、手話 についての基本的な方法につ いて学習する10回講座	障がい者の人 権		18歳以上の方*高校生不 可(21人)
幸田	10月16日	講座	誰でも楽しめる、ボッチャ体験	緒方 理恵さん (株)花王グループ カスタマーマーケティング)	パラリンピック競技種目の ボッチャを市民に体験して、 健常者も障がい者も体験参加 する講座	障がい者の人 権	(株)花王グ ループマーケ ティング会社	市民
幸田	10月20日	講演会	戦争と平和	工藤 武子さん (熊本県原爆被害者 団体協議会)	戦争(被ばく)体験談を通し て、戦争と平和及び人権につ いての理解を深める。	原爆被害者等 の人権	人権教育指導室	田迎南小第6年児童及び 教職員 (128人)と地域住民
飽田	9月27日	講座	手話講座	小林 祥子さん (ふれあい文化セン ター社教主事)	手話・指文字の学習をととし て、耳の不自由な方のことを 理解し、困っている方を助け ようとする意識を育てる。	障がい者の人 権	ふれあい文化 センター	飽田南小4年生

令和５年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
飽田	10月17日	講座	手話講座	小林 祥子さん (ふれあい文化センター社教主事)	手話・指文字の学習をとおして、耳の不自由な方のことを理解し、困っている方を助けようとする意識を育てる。	障がい者の人権	ふれあい文化センター	飽田東小４年生
飽田	11月10日	講演会	ハートフル講演会 「ネット社会における豊かな人権感覚」	戸田 俊文さん (真和中・高等学校)	豊かな人権感覚をもってネット社会に参画することを学ぶ。 見えない相手への心づかいや情報拡散等への注意について知る。	インターネットによる人権侵害	人権教育指導室	飽田東小５・６年生
飽田	11月17日	講座	ボッチャ体験	小野 浩和さん (熊本市文化スポーツ財団)	オリンピック・パラリンピックの種目でもあるボッチャ。競技を通じて、障がいに関わらずに楽しめる競技を知る。	障がい者の人権	熊本市文化スポーツ財団	飽田南小３・４年生
天明	11月26日	講演会	心に響く、唄声を	大山 桂司さん (シンガーソングライター)	天明文化祭の中でステージ上で披露する場を設け、唄とトークを披露してもらった。	障がい者の人権	天明文化協会	
天明	12月10日	講演会	ハートフル講演会 「相手の立場を考え思いやりのあるSNSなどの正しい使い方」	村上 奈美さん (マリオネット)	SNSの使い方で注意する点や犯罪防止のための対策など。	インターネットによる人権侵害	人権教育指導室	川口小学校児童(30人) 保護者(10人)
天明	2月16日	講座	誰でも楽しめる、ボッチャ	野崎 靖弘さん (熊本県ボッチャ協会 障がい者スポーツコーチ)	パラリンピック競技の種目でもあるボッチャを地域の方々に体験してもらい健常者も障がい者も楽しんで参加してもらう。	人権全般	熊本県ボッチャ協会	地域の方々どなたでも
天明	7月6日	講演会	おでかけ公民館 「SNS・メディアのよき使い手になるために」	宮津 光太郎さん (総合支援課指導主事)	相手を思いやったSNSの使い方	インターネットによる人権侵害		中緑小学校児童(50人) 保護者(20人)

令和５年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
富合	12月17日	講座	「親子でパラスポーツ ボッチャ体験」	新谷 大輔さん (上級障害者 スポーツ指導員 日本ボッチャ協会 審判員) 他2人	パラスポーツ競技ボッチャの 歴史と障害者理解 ボッチャのプレーヤーとの交 流と競技体験	障がい者の人 権	家庭教育学級 講座	
富合	2月22日	講演会	「再起可能～脊髄損傷，両下肢完 全麻痺からの生還～」	木村 和也さん (RKKアナウンサー)	事故で負われた脊髄損傷から の立ち上がりについてあきら めない姿勢と努力することの 大切さをアナウンサーとして の現在の話も交えて中学生に 伝える。	人権全般	富合中学校PTA	
城南	10月24日	講演会	城南町転入者人権教育研修会	栗山 重信さん (人権の風)	部落問題を始め、身の回りの 差別事象について考えて啓発 していく。	同和問題		城南町に赴任された職 員（行政職・教職員） 向けの研修会
城南	7月12日	講演会	人権教育の推進について	井上 大介さん (菊陽町立菊陽中部 小学校 校長)	教職関係における自らの人権 教育の取り組みとこれからの 取り組みについて。	人権全般		・ 行政職員 ・ 教職員 ・ 市民
城南	9月13日	講演会	インターネットにおける人権侵害	松川 由美さん (モバイルネット ワーク研究所)	様々な情報通信に関する媒体 から生じる差別事象と弊害か ら、人権教育について考えて いく。	インターネッ トによる人権 侵害		・ 行政職員 ・ 教職員 ・ 市民
城南	10月11日	講演会	SDGｓ と人権	神田 みゆきさん (SDGｓ アソシエ ーションくまもと)	SDGｓの取り組みから見える人 権教育の考え方と取り組みに ついて	人権全般		・ 行政職員 ・ 教職員 ・ 市民
城南	1月10日	講演会	困らせる子どもは、困っている子ども ～子どもの声を聴く・ 子どもアドボカシーとは～	坂田 明夫さん (児童養護施設 甘木山学園支援部長)	子どもアドボカシー、こども 基本法。こどもの人権・権利 に関する内容について	人権全般		・ 行政職員 ・ 教職員 ・ 市民

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
城南	2月14日	講演会	部落差別事件とどう向き合ったか	平井 靖彦さん (地域人権教育指導員)	菊池市における差別発言等における取組として、人権宣言を発出していくまでの道のりについて	同和問題		・行政職員 ・教職員 ・市民
城南	10月26日	講演会	ハートフル講演会	三枝 三七子さん (絵本作家)	水俣病の学習を通して環境問題、人権問題について調べたり、考えるきっかけとする。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	豊田小学校5年生(31人) 保護者、教職員 及び豊田小校区住民
幸田 南部 飽田 富合 城南	3月16日	講演会	南区六公民館 合同人権教育・啓発講演会	矢野 大和さん (口演家)	落語を通して、人権についてわかりやすく学び、人権意識を啓発する。	人権全般	熊本市人権啓 発市民協議会	市民
龍田	10月5日	講演会	おでかけ公民館講座 「国際理解を深め 平和な世界をつくるために」 (龍田小学校)	寺本 真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の子どもたちの様子やウクライナの現状をオンラインで直接聞きながら、平和な社会を築くためにどうすべきか考えた。	子どもの人権		龍田小学校6年生児童 及び教職員(135人)
龍田	10月20日	講演会	おでかけ公民館講座 「平和な社会を築くために ～戦争体験者に学ぶ～」 (龍田小学校)	浦田 藤枝さん	戦時中の子どもたちの生活や被爆体験を通して「いのち」や「平和」について考える。	原爆被害者等 の人権		龍田小学校6年生児童 及び教職員(127人)
龍田	10月25日	講演会	おでかけ公民館講座 「みなまたから学ぶ思いやりの 大切さ」 (弓削小学校)	三枝 三七子さん (絵本作家)	「みなまたの木」の読み語りをとおして、水俣病についての理解を深める。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	弓削小第5学年児童 及び教職員(41人)
龍田	11月17日	講演会	おでかけ公民館講座 「あなたに届けます、 心に響く歌と優しい気持ち」 (武蔵中学校)	大山 桂司さん (シンガーソングライター)	講師は全盲のシンガーソングライター。前向きでまっすぐな気持ちをこめた自作の歌を演奏しながら、歌に込めた思いや願いを聞く。	障がい者の人権	人権教育指導室	武蔵中学校全校生徒及 び教職員(330人)
龍田	5月19日	講座	主催講座 はじめての手話	小野 康二さん (熊本県手話サークル わかぎ熊本グループ)	手話の初心者を対象に、手話についての基本的な方法について学習する5回講座。	障がい者の人権		18歳以上の方*高校生不可(6人)

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師（所属等）	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
龍田	1月30日	講座	主催講座 心に寄り添う傾聴	赤塚 幸代さん (傾聴ボランティア 熊本)	傾聴について基本的な技法を学ぶことを通して、よりよい人間関係が必要な生活場面（介護、育児等）において、望ましいコミュニケーションの方法を学ぶ。	高齢者の人権		市民
清水	10月26日	講演会	ハートフル講演会	三枝 三七子さん (絵本作家)	水俣病の学習を通して環境問題、人権問題について調べたり、考えるきっかけとする。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	高平台小学校5年生 教職員、地域住民
清水	11月24日	講座	ボッチャ体験講座	吉田 祐一さん (Art and Sports for Everyone 代表)	ボッチャについて説明 ボッチャ体験	障がい者の人権	おでかけ講座	城北小学校3年生、教職員
北部	8月19日	講演会	熊本市北部公民館人権啓発講演会 「歌舞伎町という町に寄り添う」 ～あらゆるいきづらさを持つ人たちと向き合う夜回りと相談室の話～	渡邊 美代子さん (新宿歌舞伎町夜回り & 相談室相談員)	新宿歌舞伎町夜回り & 相談室相談員として、いろいろな方々と接する中で感じられたことなどを聞く。	人権全般	熊本市人権啓発 市民協議会	市民
北部	9月30日	講演会	熊本市北部公民館主催 ハートフル学習ルーム 「パーキンソン病の映画への想い」	古新 瞬さん (映画監督) 樋口 了ーさん (シンガーソングライター)	パーキンソン病をテーマにした映画制作への想いなどを聞く。	難病等をめぐる人権	熊本市人権啓発 市民協議会 旅のよろこび 株式会社	市民
北部	10月15日	講座	熊本市北部公民館主催 ハートフル学習ルーム 「パーキンソン病という荷物を抱えて」	樋口 了ーさん (シンガーソングライター) 渡辺 健太郎さん (ギターリスト)	パーキンソン病と闘いながら、シンガーソングライターとして活動されている樋口了ーさんの歌や語りを通して、参加者一人ひとりが、自分の事と重ねながら考える良い機会となる。	難病等をめぐる人権	旅のよろこび 株式会社	市民
北部	11月7日	講座	熊本市北部公民館主催 ハートフル学習ルーム 「全盲のヨットセーラー」	岩本 光弘さん (ヨットセーラー)	全盲のヨットセーラーとして活躍されている岩本光弘さんの生き方に学ぶ。	障がい者の人権	旅のよろこび 株式会社	市民

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師(所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
北部	12月14日	講演会	熊本市北部公民館主催 おでかけ公民館講座 ハートフル講演会 「水俣の海で命と出会いを」	森下 誠さん (ダイバー)	水俣に生まれ育たれた講師の生きざまを語られる中で、「水俣病」と向き合い、差別と向き合い克服していく中で、ふるさと水俣を誇れるようになります。現在はダイバーとして水俣の海に潜り続けられており、「ヒメタツ」というタツノオトシゴの新種の観察を通して、再生した水俣の海の生き物の「命」を守り育むという視点でも話をされた。	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	西里小学校5年生児童、教職員、保護者、地域住民
植木	11月17日	講演会	「長崎原爆被害のお話し いま私が伝えたいこと」	工藤 武子さん (熊本市原爆被害者の会理事)	当時、国鉄職員として長崎市内で勤務されていた深堀弘泰さんの体験を聴き、平和の尊さを学ぶ。深堀さんは、長崎で被爆し、爆心地に向かう第一救援列車の乗員として地獄のような体験をされ、さらに爆心地近くに自宅があったため、大切な家族を失われました。語り部の工藤さんは、同じ長崎の被爆者です、自分の体験談も交え、深堀さんの体験を「祖父が孫に語る」というストーリーの紙芝居で、平和の尊さを伝えている。	原爆被害者等の人権		桜井小学校6年生 保護者
植木	10月25日	講演会	主催講座 おでかけ公民館講座 (ハートフル講演会) 「みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ」	三枝 三七子さん (絵本作家)	なぜ水俣病の学習をするのかを考えるとともに、水俣病を正しく理解し、これからの未来のあるべき姿を考えていく。 ・三枝さんと水俣病との出会い → 原田教授との出会い ・絵本「みなまたの木」の読み聞かせ ・水俣での差別のおこり ・水俣での出来事を私たちの生活に引き寄せて	水俣病をめぐる人権	人権教育指導室	菱形小学校5年生 保護者

令和5年度 人権教育・啓発関連講座や講演会の実施状況

館名	期日 (複数回の場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」・講座名	講師(所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・その他)
植木	6月14日 ～10月4日 (全10回)	講座	主催講座 楽しく学ぶ初めての手話	福田 九さん 森 米子さん (熊本県ろう者福祉 協会)	初心者向けの内容。手話を使 ってボランティア活動がし たい。聴覚障がい者の方と交 流がしたいなど・・・手話を 学びたい方を募る。希望者 は、10月に実施される「全国 手話検定試験」4級又は5級の 受験を目指す。	障がい者の人 権		市民(17人)
植木	2月6日	講演会	主催講座 おでかけ公民館講座 (ハートフル講演会) 「ストーリーとチルドレンから学ぶ生 き方」	寺本 真将さん (MASA FREE SCHOOL 代表)	世界の働く子どもたちの 現状 を知り、子どもの人権 につい て考える機会とする。	子どもの人権	人権教育指導室	吉松小学校5・6年生 教職員
清水 植木 清水 北部	10月9日	講演会	熊本市北区公設公民館 (植木・龍田・清水・北部) 合同人権啓発講演会 「みんなちがって、みんないい」	横田 久世さん (筆師、マラソンア スリート)	突然の病気のため、両足と手 の指を失いながらも「筆師」 として筆を執り続け作品を制 作すると同時に、競技用義足 を装着し、国内外のマラソン 大会に挑戦している。熊本城 マラソンにも出場された講師 の常に前向きな生き方に触れ る。	障がい者の人 権	熊本市人権啓 発市民協議会	市民

じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

「核兵器のない世界」を望む

令和 5 年 5 月、広島市で開かれた G7 広島サミット（先進 7 カ国首脳会議）にウクライナのゼレンスキー大統領が急遽来日し、世界平和を訴えました。それを受けて日本の岸田首相は改めて「核による威嚇（いかく）やその使用はあってはならない！」とメッセージを発表しました。

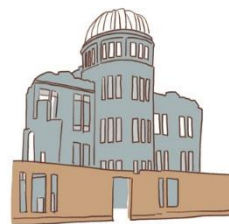
昭和 20 年（1945 年）8 月。日本は世界で初めて原爆投下を受け、数多の被害者を出した原爆被爆国となりました。

あの日から 77 年も過ぎました。

しかし、原爆の保有国と保有数は増加しています。

「ノーモア広島ノーモア長崎」

私たちは常にこの言葉を抱いて訴えていかねばならないのです。



じんけんコラム ホッと♡スペース 2023.7 「戦争・平和」

じんけんコラム ホッと♡スペース

ひとにやさしい、じぶんによさしい
あたたかい話題をとどけます！

「人権」を尊重できる

「人権」。それは、「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」または「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」であり、誰にとっても身近で大切なもの、違いを認め合う心によって守られるものです。だから、子どもたちに対して話す時は「命を大切にすること」「みんなと仲良くすること」と伝えます。

本来、「人権」が大切であることは誰でも理解できるものです。しかし、現代社会では相手の心など考えもしないプライバシーの侵害やネット投稿が数多く見られます。外国人に対しての差別や部落差別（同和問題）なども依然として存在しているのです。

熊本市では、互いの違いを認め、尊重し、助け合うことのできる共生社会の実現に向けて、誰かのことではなく自分のこととして「人権」を考え、お互いの人権を尊重できる人づくりに関わる取り組みを進めています。

じんけんコラム ホッと♡スペース 2023.8 「人権の大切さ・部落差別（同和問題）」



識字率 100%で世界を平和に



文字を読み書きし理解できること、またその能力のことを識字（しきじ）といいます。日本では子どもや若年層にほとんどいませんが、戦中・戦後に子ども時代を過ごした世代には文字を奪われた方がいらっしやいます。また現在、学校に通えていない子どもいることも知っておかなければなりません。戦争や貧困、差別などが文字を奪うのです。

読み書きができるということは物事を理解したり、自分の思いや考えを伝えたりできるということです。これは教育の基礎であり、社会や経済の発展にも深く結びついているきわめて重要な能力です。

毎年9月8日は「国際識字デー」です。教育のあり方について話し合う会議でイラン国王が各国の軍事費の一部を識字教育に充てることを提案し、1966年9月8日、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が国際識字デーを制定しました。世界中の国々や人々に識字の重要性を訴え、世界の識字率を向上させることを目的としています。

世界には日本の人口の約7倍の非識字者がいるとされています。戦争、貧困、差別などをなくす取り組みが、世界の平和と人々の幸福につながることを信じて、私たち一人一人が識字率100%になる一歩をふみ出しましょう。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2023.9 「国際識字デー」



高齢者虐待防止法を知っていますか？



2006年に、高齢者虐待防止法が施行されました。高齢者に対する虐待には「つねる・叩く」「無視する」「ご飯を食べさせない」「入浴や着替えもさせず髪も伸び放題」「嫌みや悪口を言う」「ベッドなどに括りつける」などいろいろあります。近年、介護施設や家族の間でも、このような虐待のニュースがとりあげられることが多くなっています。

あの家、またおじいさんが寒空なのに外に出されて家に入れてもらえないようだ。あっちの家からは怒鳴り声がまた聞こえてきた。またおばあちゃんが怒られているのか……。

近所でそんな虐待が行われてると気づいたら、ぜひ民生委員さんに相談してほしいのです。民生委員さんがその先の諸施設に繋げてくれます。

「虐待」はいけない行為です。しかし、そこに至るまでに様々な経緯や葛藤がきっとあったはずです。虐待の被害にあった高齢者もその加害者もその人らしい生活ができるように支援していくことに繋がることが虐待を防ぐうえで重要なことです。

「先は我が身」です。多くの人にこの法律について知っていただきたいものです。

じんけんコラム ホツと♡スペース 2023.10 「高齢者の人権」

犯罪被害者やその家族の人権を守る！

犯罪被害者やその家族は、直接的な被害のほかに、興味本位の噂や心ない中傷により傷つけられたり、プライバシーが侵害されたりするなどの二次的な被害を受けることがあります。犯罪被害者やその家族の人権に配慮しないといけません。

被害者やその家族は、犯罪そのものやその後遺症によって精神的、経済的に苦しんでいます。さらに、追い打ちを掛けるように、興味本位の噂や心ない中傷等で名誉が傷つけられたり、私生活の平穏が脅かされたりするなどの問題が指摘されています。

それらの対策として、犯罪被害者等のための施策を総合的かつ計画的に推進し、犯罪被害者等の権利や利益の保護を図るため、平成 17 年に立法化された「**犯罪被害者等基本法**」に基づく「**犯罪被害者等基本計画**」（平成 28 年第 3 次基本計画策定）が作られました。以来、毎年 11 月 25 日から 12 月 1 日までの 1 週間を「**犯罪被害者週間**」として、犯罪被害者等が置かれている状況や犯罪被害者等の名誉又は生活の平穏への配慮の重要性等について、理解を深めてもらうことを目的とした活動が展開されています。

じんけんコラム ホッと♡スペース 2023.11 「犯罪被害者の人権」



12月4日～10日は、人権週間

国際連合は、昭和 23 年 12 月 10 日に世界人権宣言を採択し、昭和 25 年には、世界人権宣言が採択された日である 12 月 10 日を「人権デー」と決めました。

昭和 24 年以降、毎年「人権週間」を中心に各地でさまざまな啓発活動が行われており、本市では今年も人権啓発作品の表彰や作品展示などのイベントを実施します。

入賞作品の展示（最優秀賞・優秀賞）

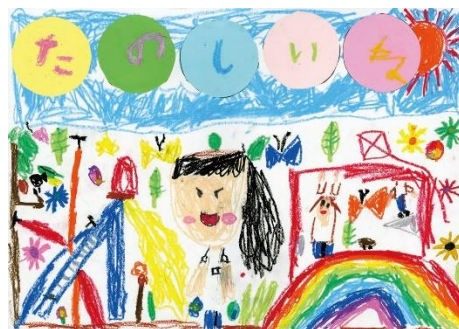
展示場所：市役所 1 階 ロビー

展示期間：12月1日（金）～8日（金）※土・日曜日を除く

公民館の展示（担当校の児童生徒の最優秀賞・優秀賞など）

展示場所：

展示期間：12月 日（ ）～ 日（ ）※月曜日を除く



〔令和5年度 絵・ポスターの部 小1 最優秀賞
出水小学校 1年 福島つららさん〕

じんけんコラム ホッと♡スペース 2023.12 「人権週間」

1月28日(日) [毎年1月最終日曜日] は、世界ハンセン病の日

ハンセン病は、感染力は非常に弱いので、ハンセン病から回復した人や現在治療中の
人から感染することはありません。しかし、昔、治療法がなかったころには後遺症が残
った人も多く、そういった外見や感染に対する恐れから、患者や回復者は何世紀にもわ
たって、隔離されたり、差別されたりしてきました。

回復者のみならず家族の方々に対しても極めて厳しい偏見や差別が存在していたこと
が認められ、令和元年のハンセン病家族訴訟において国へ賠償が命じられました。しか
し、今なお差別を恐れ、補償申請をためらっている方々がたくさんいらっしゃいます。

ハンセン病に対して偏見をなくすために私たち一人一人が正しい知識をもつ必要があ
ります

じんけんコラム ホッと♡スペース 2024.1 「ハンセン病回復者の人権」

世界人権宣言を実現して貧困を削減しよう

世界人権宣言は、1948年に国連総会において採択されました。これは「人権」の歴史
にとって、非常に大きな出来事です。人権及び自由を尊重して確保するために、すべて
の人民とすべての国が達成すべき共通の基準が、世界に向けて宣言されたのです。差
別なく平等に生きる権利があると世界人権宣言で述べられています。

しかしながら、貧困状態にある人々の多くは差別や不平等にさらされており、人権が
守られていない状態です。他にも先住民族、少数民族、避難民、女性、子ども、障害
者、性的マイノリティの人たちへの差別、それから人種的、宗教的、経済的、文化的差
別もあります。病気や職業、迷信、言語の違いや肌の色の違いから私たちは差別を生
み出してしまうことがあります。

日本政府は重点課題の一つとして「質の高い成長とそれを通じた貧困撲滅」を挙げて
います。開発途上国への「開発協力（国際協力活動）」には基本的人権の推進も含まれ
ることが、確認されており、基本方針には社会的に弱い立場に置かれている人々を対象
にすることが記されています。また、国際協力機構（JICA）は「貧困をなくそう」と
「人や国の不公平をなくそう」という目標を達成するために社会保障分野への協力が重
要であることを述べ様々な取り組みを進めています。

私たちにできることは、一人一人の多様性をしっかり受け入れ、人権に関する知識を
さらに深めていくことだと思います。

じんけんコラム ホッと♡スペース 2024.2 「世界人権宣言」

令和5年度(2023年度)重点事業

(2) 地域の教育力を高め合い、

まちづくりにつながる事業の実施



- ① 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施
- ② ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供
- ③ 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充

【研究グループ②】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 五福公民館 >

講座名	ごふくフットパスよかところさるき		
日時	毎月1回(5/18、6/20、7/29、8/20、9/21、10/24、11/29、12/22) ※赤字の日は中止。(天候の都合)		
場所・参加者数	五福校区界隈		
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施		
内容	五福校区を中心に、地域の歴史や景観、お店や旧跡などを訪ね歩き、地域の持つよさに気づき、参加者と地域人材をつなぎ、何度も地域を訪れていただくきっかけとなる講座としている。 地域の歴史のことについては、よくご存じの方にご一緒いただき、参加者からのお尋ねにもお答えいただき、よい関係が生まれている。 また、地域の寺社や店舗を訪ねる時には、ご住職や店員さんにご協力を仰いで実施している。年に一度、五福小学校のこどもたちが案内をする機会も設けている。		
成果と課題	☆参加者には歴史好きの方が多く、毎回たくさんのことを尋ねてこられる。地域の歴史については、ご対応を仰いでいるが、よくお調べいただき、よい学びの時間が作り出されている。 △天候に左右されることがあり、高齢者の参加が多いことから、滑りやすい雨の日や低温が予想される日は中止とした。皆さん残念がっておられたが、次回をご案内すると楽しみにしておられた。 ☆こどもたちの表現活動の場となっており、学校との連携が非常にうまく行われている事例となった。今後も継続して、地域の学校との学社連携を深めたい。		
   下馬神社で歴史の学び 第一高校内の古墳見学 小学生がお店の説明をします。			

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 東部公民館 >

講座名	おでかけ公民館 「尾ノ上大好き！尾ノ上の町のじまんをしよう」	
日時	令和5年（2023年）10月19日（水） 8：30～9：15 令和5年（2023年）11月15日（水） 10：30～11：40	
場所・参加者数	尾ノ上小学校 体育館	第3学年 95人
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	
内容	尾ノ上小3年生の先生方から総合的な学習の時間で校区のことについて学習を進めたいが、どのように展開したらいいか悩んでいると相談があった。そこで、学習計画を一緒に考え、役割分担をした。 まず、地域担当職員に校区の概要を話してもらった。そこで出た校区に対する疑問・質問を自治会長に相談し、学校で一堂に会し、答えてもらう機会を設けた。 今後は、地域のイベントについて調べていくことになっているため、イベントの主催者を学校へ派遣する予定である。さらには、子どもたちがまとめた魅力mapなどを地域へ発表する機会も計画中であり、自治会長などとの連絡調整を行う予定である。	
成果と課題	地域担当職員の話聞いた後、校区への愛着が増したようだった。「まちづくりについての学習をしてゴミがしばらくたったら無かったのもまちづくりの人、地域の人達がちゃんとしてるんだなって思いました。尾ノ上のじまんがたくさん分かったのが良かったです」「ちいきの人によってささえられていることが分かりました。町づくりのことが知れました」との感想が聞かれた。また、自治会長へのインタビューの場では、8町内中7名の参加があり、双方、楽しそうに意見交流がなされていた。校区の魅力を子ども達は再発見することができ、地域への愛着を高めていた。 地域担当職員の協力により、地域と学校をつなぐ一助を担えるようになり、学校によっては各学年と連携が図れるようになった。地域の自治体も学校に協力をする労力を惜しまない。ただ、学校側が連絡調整の時間や情報が不足しているため、連携が進んでいないように思う。連携の具合に校区差があるため、地域と学校をつなぐより良い方法を今後も模索していきたい。	

		
地域担当職員から地域の概要について話を聞いている。	自治会長から町内会の取組について聞いている。	個別に質問し、理解を深めている。

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 秋津公民館 >

講座名	おでかけ公民館 「桜木東の歴史を調べよう」	
日時	令和5年（2023年）9月13日（水） 13：45～14：30	
場所・参加者数	桜木東小学校 体育館	第3学年 87人
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	
内容	桜木東小3年生の先生方から総合的な学習の時間で校区のことについて学習を進めたいが、桜木東校区の歴史について調べているがなかなか見つからないと相談があった。そこで、前社会教育主事が中心となって作成した「あさひばマップ」を活用したり、地域担当職員に相談したりして学習内容を考えた。 まず、学年全体に桜木東校区の歴史について話をしたあと、こどもたちは3つのテーマに分かれて学習を進めていった。 そして、その中の1つのグループが桜木東の歴史について自分たちで学習を深め、「沼山津神社」について調べたいということになり、地域の方に協力していただき、沼山津神社の現地学習を行うことができた。	
成果と課題	こどもたちは、桜木東校区の歴史について話を聞いたあと、自分たちの住む校区にも古くからの歴史があることに気づき、これまで以上に誇りを持つことができたようだった。 とくに、沼山津神社には友だちと一緒に遊びに行ったり、初詣で訪れたりしたことがある児童は多かったが、詳しく知ることにより、さらに興味を持つことができた。また、地域の方たちが今も、そして何百年も前からずっと沼山津神社を守り続けてきていることにも気づき、これからも自分たちが守り続けていきたいという気持ちが生まれたようだった。 学校は毎日の業務で大変いそがしく、地域のすばらしい教材や人材がたくさんいることに気づけなかったり、知っていてもどうやってお願いしたらよいのかわからずに悩んでいる先生方がたくさんいる。そんな先生方と地域をこれからはもっと繋げていくことが必要だと感じた。	
 花立往還と木山往還の間に立っている追分石。  500年を超える歴史を持つ「沼山津神社」		

【研究グループ②】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 託麻公民館 >

講座名	託麻公民館内合同家庭教育学級 体験 陶芸教室	
日時	令和5年（2023年）7月23日(日)、29日（土） 13:30～15:30	
場所・参加者数	託麻公民館 ホール	28人
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	
内容	○陶芸について話を聞く（和み窯 馬場絵理香さん、馬場和子さん） ○陶芸と託麻公民館管内との結びつきについて簡単な話を聞く ○陶芸体験 ・土をこねる ・成形する ・絵付けをする ○窯で焼いてもらい、出来上がった器を受け取る（後日）	
成果と課題	・自分たちの住んでる地域に陶芸を作る窯があることを知らなかったこども達は、驚き、そして喜んでいた。「見に行きたい。」と家族に話しているこどももいた。 ・託麻公民館内の史跡や発掘された土器などの簡単な話を聞き、地域の歴史への関心が高まったこどももいたようだった。さらに自由研究などで深めていってくれることを期待する。 ・地域にある窯なので継続して体験会を行っていこうと考えていたが、今年限りで体験会を辞められるということだったので、新たな地域素材の発掘を行っていく必要がある。	
 〈出来上がった作品〉  〈出来上がった作品〉		

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 富合公民館 >

講座名	木原不動尊de写経体験	
日時	10月21日 土曜日 午前10時～正午 全1回	
場所・参加者数	天台宗雁回山長寿寺 木原不動尊	8人
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	
内容	まず、日本三大不動尊のゆえんと歴史について、本堂の中において角本尚隆住職から講話をいただく。 その後、天台宗で言う写経「仏説聖不動経」をするための建物「讃佛壁」へ移動し、写経の歴史と意義、作法などの説明を受けたのち、45～60分程度の写経体験を実施。 その都度、受講生からのおたずねを受けては解説いただきながらの講座。 厳かな環境下での講話と写経体験を上記住職及び角本ひろえ様の2名に依頼して実施した。	
成果と課題	○ 参加者の方から再度企画をお願いしたいとの大絶賛の充実した講座となった。 ○ 現地、木原不動尊に初めて来ました。とても素敵な場所 で念願の写経を体験できたので、次年度もぜひ開催してほしい。 ○ 写経をまた体験したい。境内、野外の散策、ご案内などもあれば楽しめると思いました。（アンケートより） △ 富合エリアの参加者をねらって企画した講座であったが、参加者は全て他のエリアの方々となった。次年度は反省を活かして、自治会長会の折にでも講座の意義を説明し、ぜひ富合エリアからの参加者を期待したい。	







木原不動尊の歴史の説明

写経「不道経」の意義の話

「不道経」写経体験の様子

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 飽田公民館 >

講座名	おでかけ公民館 「飽田地区の長茄子について知ろう」	
日時	10月19日（木） 9：35～11：30	
場所・参加者数	飽田東小学校	91人
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	
内容	熊本の茄子の生産高は全国2位で、約12％生産している。飽田地区は長茄子生産が有名で、公民館の前にも長茄子のビニールハウスがある。へたに棘がなく収穫しやすい「PC筑陽」という新種を開発し、飽田地区の行事名を「ながなすコンサート」とするなど地域の方にも長茄子は親しみがある。 しかし、長茄子が有名と知ってはいるが、なぜ有名になったかは知らない方が多い。地域の学校から長茄子について詳しい講師を紹介して欲しいと相談があり、JA熊本市野菜選果施設の職員の方を紹介した。	
成果と課題	○海の側で干拓地の平野が広がり、川の水が豊富、土壌との相性がいい等の条件で、長茄子生産が始まり、様々な工夫や品種改良等経て生産量を増やし、有名な産地となったことを学べた。 ○今回が3年生対象と言うことで、講師とも相談してことばによる説明を減らし、PowerPointで視覚的にも分かりやすい資料を中心に講座を行った。 ○クイズを多めに入れ、こどもたちが聞くだけでなく参加できる講座を実施した。 △2時間、3クラス一斉の実施だったので、こどもによっては集中力が下がる場面も見られた。	

		
PowerPointを中心とした説明	竹のビニールハウス 昔の長茄子栽培の様子	クイズに挙手するこどもたち

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 天明公民館 >

講座名	ふるさと探求！天明の歴史と自然（野鳥）	
日時	令和5年9月9日（土）、16日（土）、30日（土）	
場所・参加者数	天明公民館	50人
取組の重点	①地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施	
内容	有明海に接する天明管内は昔は海であったところを干拓し農地として広げていった地域である。この干拓に様々な形で携わった地域の歴史が各種文献に僅かに残る。その記録をもとに、地域の歴史をわかりやすい資料にまとめられた地域在住の元校長先生である白河部健先生に、今回の講師を依頼し講演をしてもらった。 この講演を通して、地域の方々がこの地域の特徴や魅力を再認識することで、地域の発展や歴史の継承、自然環境保護などについて市民意識の醸成にもつながるとともに、地域への愛着や理解を深めることができるよい機会になればと思う。	
成果と課題	参加された方々からはとても好評で、それまで知らなかった地域の歴史を再認識できてとても満足されていた。講演の後の意見交換では、それぞれの地域に昔から住み、先祖から伝わる言い伝えや知識を披露する方もいて、地域の歴史のロマンが広がる場面も見られた。 また、残された文献からはまだわからない事もあり、今後の地域の歴史探求のきっかけにもなり、今後の課題としてつなげることもできた。講師の白河部先生は、これらの課題を今後若い人が引き継いで、地域の歴史を調べてもらい新たな発見につながることでできればと語られていた。	



【研究グループ②】地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 大江公民館 >

講座名	高校生ボランティアによる「スマホお悩み相談室」	
日時	令和5年12月17日（日曜日）	
場所・参加者数	大江公民館 C会議室	高校生13名 講座生17名
取組の重点	②ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	
内容	○スマホ操作の主催事業で落選された方々を対象に、スマホ操作お悩みのアンケートを送付し、お悩みを高校生ボランティアが解決する。 ○「フレンドリー」をテーマに高校生と参加者がスマホ操作を通して仲良くなることを大事にし、おしゃべりをたくさんしてもらうことにした。 ○高校生ボランティアとして九州学院の生徒を講師として依頼し、事前に高校へ行き内容等について事前協議を行った。 ○高校生ボランティアには、市長名でボランティア証明書を発行した。	
成果と課題	○参加者の感想から ・非常にわかりやすく説明してくれた。 ・知らなかったことも新たに聞くことができて目から鱗でした。 ・若い人と交流できた。 ・このような機会をまた設けていただけないでしょうか。 ○高校生ボランティアの感想から ・自分はわかっていても相手に伝えることは難しかった。 ・教えるだけでなくおしゃべりしながら楽しくできた。 ○とても好評だったので、継続してできるように各高校と連携を深めていきたい。	
  高校生ボランティアがスマホ操作を通して参加者と仲良くできている場面		

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 城南公民館 >

講座名	茶つみフットパス i n 城南	
日時	令和5年4月23日（日）午前10時～正午	
場所・参加者数	城南地域物産館「火の君マルシェ」～吉野山～ 竹田製茶工場～城南地域物産館「火の君マルシェ」	25人
取組の重点	②ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	
内容	共同主催として「城南地域ブランド力向上委員会TEAM城南ワンダホー」「城南まちづくりセンター」「城南図書館」「城南児童館」及び「地域のボランティア高校生・大学生」と共に取り組んだ。熊本市内の一般参加者と共に城南町を楽しく歩き巡り、簡素的に歴史や諸要素の場所を巡り城南町の紹介を兼ねて、親しんでもらった。 メインは、地域の茶畑「茶摘み」（後に製茶工場から参加者に茶を送付）を通して、冷やし「茶漬け」を食べることにつなげることである。また、参加者には、新たな城南町の良さの発見や観光等の誘致に誘うことである。 この活動を通して、ワンダホーの取組やボランティア学生による参加者への地域の紹介ができ、さらに地域発掘・精通することで地域愛を育んだり地域人材の養成の機会の一助になっている。	
成果と課題	参加された地域及び市内の他地域の親子は満足されていた。「地域の良さの再確認ができた」「（市内の方）また、城南に遊びに来ます」「有意義な時間が過ぎて。楽しかった」などの感想があった。地域人材を育てるには、地域に入り込み、さらに地域に触れ・感じることから始める。そのことから地域を愛し、何かを始める活動の起爆材となり、地域の縦・横の繋がりから行動につながる。 若い人材を含め、地域に根差し、有意義に地域に汗を流す雰囲気大切にしなければならない。負担感を払拭し、地域の一員として地域に貢献していく「やりがい」を見出していく契機としての方法・やり方・あり方の工夫が必要になってくると感じた。	



地域を知ること・関わっていくことから、人材発掘・人材育成につながり、さらには地域への貢献活動等につながっていく。



専門家の茶摘みの指導のもと、参加者親子で茶摘みの体験を行った。初めての経験者も多く、購買までの過程を楽しんでいた。



製茶の「冷やしお茶漬け」をいただく親子たち。地元の良さの再発見や地域愛を育む契機の一つとなる。

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 龍田公民館 >

講座名	武蔵塚ジュニアボランティアガイド	
日時	7月22日、7月29日、8月5日 土曜日 午前10時～正午 全3回	
場所・参加者数	龍田公民館A会議室、武蔵塚公園	2人
取組の重点	②ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	
内容	武蔵塚公園の歴史や、公園に眠る宮本武蔵の人物について、公民館の会議室で学習を行う。講師は、龍田公民館生涯学習サークル「歴史を学ぶ会」の講師にお願いした（体調不良により、途中社会教育主事が交代）。 3回目の最終日には、学習した成果を発表した。実際に来園された方に対して「ジュニアボランティアガイド」として武蔵塚公園の案内を行った。武蔵塚公園の歴史や宮本武蔵について学習したことをもとに、自分でシナリオを考え、わかりやすい案内になるよう工夫した。	
成果と課題	○小学生を対象にした講座で、武蔵塚公園の成り立ちや宮本武蔵のことについて詳しく知る機会となった。公園の近くに住んでいても知らない内容が多かった。 ○地域の小学生が、来園者にガイドをすることを通して、地域を誇れるようになった。 △エリアの学校にチラシを配布したが、はじめての企画ということもあり、参加者が少なかった。 △外国の方への来園者を想定して、英語によるガイドもできたら、と感じた。 △地域の中から講師を探せば、更に交流の深まりが期待できると思った。	
   記念碑について説明している様子 参加者と交流しながら進めた 武蔵像前での説明		

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
＜ 清水公民館 ＞

講座名	夜のおはなし会	
日時	令和5年9月2日（土）午後6時半～午後8時半	
場所・参加者数	清水公民館 ホール	36人
取組の重点	②ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	
内容	・夏の夜にお届けする、大人のためのおはなし会 ・テーマは主に怖い話、怪談 ・お話し会のメンバーが一人一話を受け持って、約10分間ずつおはなしをした。 ・一人一人、修練を重ねてきたことがよく分かる、個性が際立つ発表だった。	
成果と課題	○公民館だよりやポスター等で周知を図っていたため、想定通りの人数の観客が集まった。 ▼参加者の約半数は、お話し会メンバーの家族や友人だった。 ○椅子やパーテーションの配置を考え、満席感を醸し出すことができた。 ○今回の集いをきっかけに、お話し会の活動に興味を示した観客の中からお話し会メンバーに加わる方がいた。	



ホールに椅子を並べ、花を飾って雰囲気作り



一人一話ずつおはなしをした

【研究グループ②】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進

< 植木公民館 >

講座名	植木の史跡・名所の歴史を学べ（ボランティア養成講座）	
日時	5月14日・28日、6月11日・25日、9月10日・24日、10月5日(毎回日曜日) 10:00～12:00	
場所・参加者数	植木公民館 研修室 [現地学習会の場合もあり]	33人
取組の重点	②ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	
内容	植木の史跡・名所についての歴史的学びを通して（現地学習会も行う）、植木の良さを知ってもらう。 また、その学んだことをもとに、田原坂ガイド等のボランティア活動を行うことができる人を養成する。 5/14 豊前街道（中尾先生） 5/28 豊前街道を歩く〔現地〕（池部先生） 6/11 西南戦争の起こり（日高先生） 6/25 味取町と植木町の起こり（内古閑先生） 9/10 日本赤十字の誕生（山内先生） 9/24 西南戦争こぼれ話 10/5 西南戦争 阿蘇方面の戦い（上田先生）	
成果と課題	【成果】 ・多くの参加者で講座を進めることができた。 【課題】 ・はじめは2名の方が田原坂観光ガイドの会への入会を希望されていたが、仕事等の都合上、講習会へは参加をされなかった。高齢化のためこの会の存続が危ぶまれているので、公民館としてできることは支援を継続していく必要がある。 ・植木町の貴重な史跡・名所を後世につなげていくためにも、継続した講座開設で人材育成を行っていく。特に若い世代の方に学んでほしいと考える。	



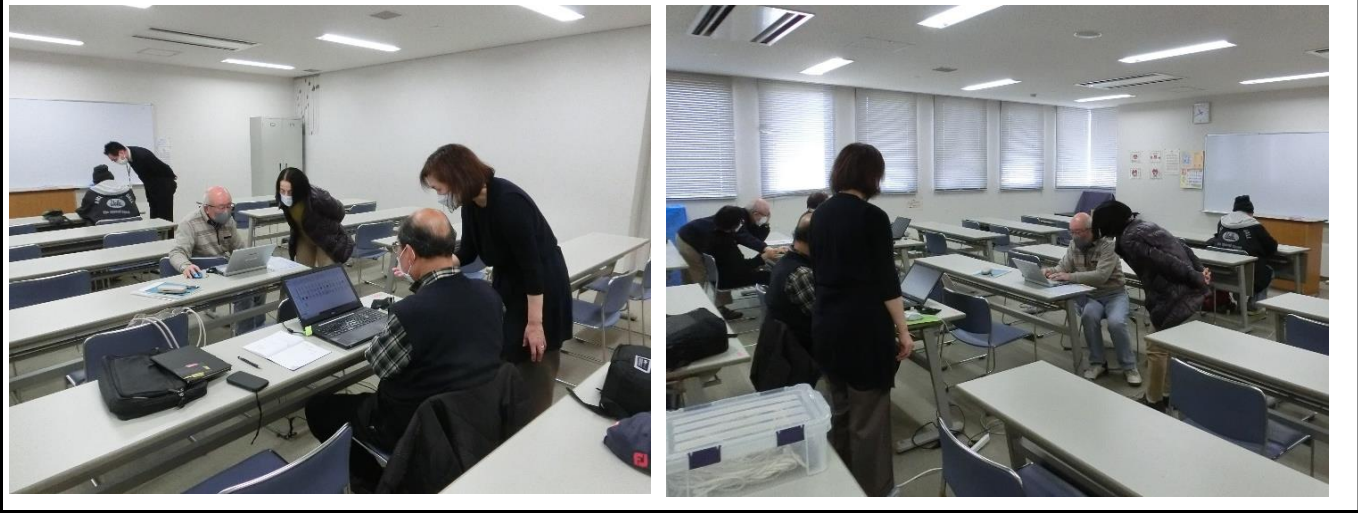
【座学の様子】



【現地学習の様子】

【研究グループ(2)】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 西部公民館 >

講座名	P C ・ スマホよろず相談	
日時	毎月第 2 土曜日 午前 1 0 時～正午	
場所・参加者数	西部公民館 会議室 A	毎月平均 1 0 人程度
取組の重点	③公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充	
内容	西部公民館では長年「パソコンボランティア」として活動が続けてきた方々が3人残っておられる。コロナ禍まではワードやエクセルの基礎といった講座を担当していただいていたが、年々参加者が減少傾向であったため、内容を変更して活動を継続しているもの。スマートフォンの相談は社会教育主事が主となって対応をしている。	
成果と課題	参加者数が多い時にはお待ちいただくこともあるが、待っている間に教え合いが始まることもあり、良い結果となっている。ボランティアの数を増やすことも考えたが、現在の参加者数であれば、対応可能だとも思う。 別枠で西高生にボランティアで参加してもらったことがあるが、地域で活動する人材として今後期待するところである。	



【研究グループ②】 地域の教育力を高めあい、まちづくりにつながる事業の推進
 < 河内公民館 >

講座名	体と心がほっかほか みんなにっこりスープ	
日時	令和6年2月23日(金・祝) 午後3時半～5時	
場所・参加者数	河内公民館 調理室	19人
取組の重点	③公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充	
内容	11月に芳野小学校の2年生が河内公民館を探検した。その後、探検で学んだことをまとめ、次にやりたいことを話し合い、図書室のお手伝いと公民館講座を企画したいと公民館へ提案する形で今回の講座実施に至った。学びの中心は学校の授業だが、時々公民館職員が助言・支援した。（下は「かわちだより」の原稿） 「体と心がほっかほか みんなにっこりスープ」 芳野小学校の2年生が河内公民館に探検に来てくれました。その後の学習で、「河内公民館を地域の皆さんに知ってもらおう!」と考えてくれたのがこの企画です。2年生の皆さん、素敵な企画をありがとうございます。美味しいスープを作って、お家の人に食べてもらおうと嬉しいね♪ 	
成果と課題	今回は担任の先生からの相談で実施することができた。学びの途中で、担任の先生のねらいやこどもたちの思いを聞き、それを受けて公民館側から提案をするなど、連絡を密にして進めることができたのも学校の協力のおかげと感謝している。 「図書室の手伝い」はおでかけ公民館講座にして芳野小2年生だけが体験することにし、「スープ作り」は主催講座にして地域の情報紙に掲載し、他のこどもたちも参加ができるようにした。こどもたちは主催講座の題名を話し合って決め、芳野小の他学年へ講座参加の呼びかけをしてくれた。 当日は芳野小2年生全員が参加し、熱心に本の片付けを手伝い、スープ作りも協力して頑張っていた。こどもたちにとっては公民館の仕事を知り、自分たちの提案が実現する機会、公民館としてはこどもたちと保護者の方々に利用していただく機会をもつことができ、大変良かったと思う。  図書室のお手伝い  スープ作り  公民館探検(11月)	

令和5年度(2023年度)重点事業

(3) ライフステージに応じた学びと 交流を促進する事業の拡充



手づくりおもちゃ(秋津)



芸術に秋にミュージカル体験(託麻)

- ① 年齢や障がいの有無、国籍等に関わらず、誰もが学びの場を得られるよう

多様な媒体を用いた情報提供及びそれぞれのニーズを踏まえた講座の実施

- ② 幅広い世代の交流を図る講座の実施

- ③ ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

＜ 河内公民館 ＞

講座名	オンラインでつながろう	
日時	令和5年5月～令和6年3月 第4木曜日 午前10時～11時	
場所・参加者数	河内公民館・芳野コミセン・河内コミセン・事業所等	延べ463人（11月現在）
取組の重点	①年齢や障がいの有無、国籍等に関わらず、誰もが学びの場を得られるよう多様な媒体を用いた情報提供及びそれぞれのニーズを踏まえた講座の実施	
内容	一昨年度から実施している講座で、オンラインで河内公民館・芳野コミュニティセンター・河内コミセン・地域の高齢者施設（11月現在5団体）・個人参加の方々とzoomで繋いで事業を実施している。今年度は学期に一度、芳野中フレンドリーオンラインの生徒さんたちにも授業の一環として参加してもらっている。内容は、健康体操をメインとして毎月講師を変え、河内の地誌や今月の歌等のコーナーを作り、誰もが分かるように声を大きくしたりテロップをつける等、工夫している。今年度は学校休業月に小学生に講師として参加してもらったり、中学生が作った読み聞かせ動画を配信したりして、違う年代の方にも参加してもらえるように企画してみた。	
成果と課題	この講座を始めた初めのねらいは、コロナ禍で運動する機会が少なくなった方々に少しでも機会をもってもらおうこと、オンラインに慣れてもらうことで災害があった際に活用しやすくすることであったが、今は様々な年代、環境の方々が学び、交流する機会にしたいというねらいを加えている。 今年度で3年目になり、内容は充実してきたと思う。また、参加事業所も増えたことで80代、90代の参加が増え、毎回楽しみにしておられるとの声も聞く。小学生や中学生の参加の機会を作ることができたのも良かった。しかし、会場での参加や個人参加は全く増えていない。パソコンやzoomを使うことに抵抗がある方が多い、ミカンや海苔等の生産業務で忙しいという声を聞く。電波が届かない地域もある。また、全ての方々に合う内容にすることは難しい。パソコンや電波の調子が悪く、動画が止まったり、聞こえにくかったりすることもある。工夫改善していく点が多い。	



＜活動の様子等＞

オンラインでつながろう
（8月）

令和5年8月24日（木）
午前10時～

①河内の地誌（面木）
②今月の歌（うみ）
③手話ミニ講座（あいさつ）
④おはなしのへや（河内中文化委員さん）
⑤河内元気体操

講師：稲田奈緒子さん
芳野校区ダンスチーム
「アミューズ」の皆さん



【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

＜ 中央公民館 ＞

講座名	はじめてのこども囲碁教室	
日時	令和5年7月28日、8月4、11、18、25日 金曜日 全5回	
場所・参加者数	中央公民館3階集会室	32人
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	次代を担うこども達が我が国の伝統文化に触れて興味を持ち、継承する機会として捉えて講座を開設した。更には通常、中央区の老人福祉センター機能の代替として、教養娯楽施設を高齢者に囲碁将棋の交流の場として開放している。 その活動とコラボして異世代間交流事業として取り組んだ。NPO法人熊本子ども囲碁普及会の講師がこども達に囲碁の基本から指導して、習熟度に合わせて高齢者との対局も企画した。	
成果と課題	こども達の囲碁の学習が効率的に行われて、意欲的な活動場面が見られた。全くの初心者から、かなり高いレベルのスキルのこども達に至るまで、我が国の伝統文化である側面と東アジアの文化としての国際交流にも繋がるものでもあると言うことを楽しく学び体験した。これによって、講座の所期の目的は達成された。 更には受講したこどもの中には、高齢者との対局において勝利する者もいて、和やかな中にも世代を超えて真剣に対局する姿に大きな成果を見出した。今後の課題としては、異世代間での囲碁大会の企画へ発展させたい。	
 こども自ら考える指導の工夫  こども同士の対局  囲碁を通して高齢者との交流		

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実
 < 五福公民館 >

講座名	五福スマホ悩み教えあいサロン	
日時	令和 5 年7月25日(水)・26日(木) 14:30～17:00	
場所・参加者数	五福まちづくり交流センター 4階 第1第2会議室	25日：33人、26日：32人
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	○高齢者の悩みであるスマートフォンの操作方法等について解決する。 ○高齢者と若い世代との交流ができるように、1対1または小集団での対話が行われるようなグループ分けやペアリングを行う。 ○世代間交流ができるように、第一高校の生徒をボランティアとして招く。 ○お互いにジェネレーションギャップを感じる事が想定されるが、そのハードルをできるだけ下げられるように、高校生に事前に研修を行い、温かい関係ができるよう配慮する。	
成果と課題	☆高齢者からの以前のスマホ講座への感想として、「意味の分からないことが多くて、私にはレベルが高すぎた」というものが頻発していた。今回は、「自分の知りたいことだけを確認したり、もっとよい方法があったりすることも教えてもらえた。大変有意義な時間だった」と感想をいただいた。 ☆高校生にとっても、高齢者との会話をするために、より分かりやすい言葉や方法、関係づくりのためのやさしい声のかけ方などのスキルを高めることができた。高校生にとっても有意義な時間となった。 △高校の先生たちとのやり取りがあるため、きめ細かい打ち合わせがより必要だったと感じる。早め早めに準備をしていきたい。	



【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

< 東部公民館 >

講座名	東区こどもチャレンジ公民館	
日時	令和5年（2023年）6月3日（土）～令和5年（2023年）12月16日（土）	
場所・参加者数	東部公民館	地域の小学生（プランナー）17人 熊本大学メイクフレンズ21人 お客さんのべ100人
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	熊本大学メイクフレンズと共催で半年に渡り、実施。募集したプランナー（こども企画者）と学生が会期で活動を企画する。参加者を募集し、プランナーと学生で実行する。 夏活動は「東部夏祭り」と題し、射的や的あてなどを行った。40人の定員に対し。133名の申込があり、大盛況だった。 10月には防災キャンプを実施。防災食を作り、避難所で使う TENT をホールに張って、宿泊し、防災意識の向上を図った。 冬活動では、「東部クリスマス劇場」と称し、劇を披露した。50名の参加者、プランナー、学生、保護者の笑顔が見られ、世代間交流を図ることができた。	
成果と課題	夏活動期間中、台風・大雨による休館で会議とプレ活動が中止となり、準備が満足にできなかった。そのような場合でも学校のタブレット等を活用し、ZOOM 会議は可能であろう。代替案を用意し、活動の保障を図りたい。 防災キャンプで、親睦も防災意識の向上も図れた。また、公民館の避難所としての側面についても啓発できた。 閉講式では「他校生や学生とのふれあいが楽しかった」との感想が聞かれ、保護者も「学校ではできない貴重な経験ができた」と喜んでおられた。公民館での活動が学校生活にもよい影響を与えているとの声も聴かれ、嬉しい限りである。	
 東部夏祭りでお客さんを楽しませているプランナー  防災キャンプ  東部クリスマス劇場で劇を披露するプランナー		

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

< 花園公民館 >

講座名	市民企画講座「こども食堂フライングダッチマン」	
日時	令和5年（2023年）6月24日(土)～令和6年（2024年）3月23日(土)	
場所・参加者数	花園公民館 BC会議室 料理実習室	毎回50人程度 乳幼児から高齢者まで
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	「地域のつながりをつくりたい。交流の場をつくりたい。みんなが安心して暮らせる町をつくりたい」、そんな思いを食で応援したい青年の願いで実施したのが、この「こども食堂フライングダッチマン」という講座だ。 花園公民館調理実習室で、代表の森山さんが子どもたちのために食事を用意した。18歳以下のこどもたちは無料、大人には300円の寄付をお願いした。また、フードバンクからの商品も配布した。 こども食堂に興味ある人が森山さんと一緒に考えながら、こども食堂の運営を実際に体験しながら学ぶ場として、月1回公民館の中にこども食堂を用意した。	
成果と課題	【成果】 ・ 毎回、ボランティアを募った。80代～20代までのこども食堂に関心のある人が集まり、調理や配膳等の手伝いを行った。こども食堂の取り組みを通して、こども食堂の運営に関心のある地域の人々が少しずつつながることができた。講座を重ねるごとにメンバーが定着してきつつある。年齢層も幅広く、世代間の交流が見られた。 【課題】 ・ 提供する側には交流が見られるが、ご飯を食べにくる人同士がつながりを持てるような学びの機会を用意したりする余裕がなかった。お客さんがプレイヤーになるための工夫が必要だ。ものつくりや習字などの講座の実施をはじめ、思いついたことを試しながら、取り組んでいきたい。 ・ 食材の調達など、代表への負担が大きい。個人で運営していくのは困難であることを痛感した。仲間づくりは必須だし、地域で取り組むことが不可欠であることがわかった。	



【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実
 < 南部公民館 >

講座名	はじめてのスマホAndroid限定	
日時	令和5年8月23日（水）・24日（木）・25日（金）全3回 午前10時～正午	
場所・参加者数	B会議室	8人
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	スマホ講座の一つで、Androidスマホ限定の初心者向け講座。補助講師として、主催講座「大学生チャレンジ」の受講生にも参加してもらい、多世代交流を図った。文字入力やLINEの送り方、インターネットの検索の仕方などの基本的な操作ができるように丁寧に授業を進めた。 主講師が授業を進めていく中で、補助講師が後ろから見ており、ついていけない受講生やわからなところがある受講生がいたら、すぐに駆け寄り、丁寧に説明していく。	
成果と課題	○ 操作が分からない人には、すぐにサポートできるのでとっても良かった。受講生からは、とても優しく、丁寧に教えていただきわかりやすかったとの感想をいただいた。 ○ 大学生と交流する機会が少ないので、「若い人から教えてもらおうと嬉しい」との意見があり、受講生も笑顔で受講できていた。 △ 「3日間では足りない。もっと回数を増やしてほしい」との意見もあった。連続3日間の講座ではなく、宿題を出すなどして、週1回の3回講座でもいいのではないかと感じた。	


わからなところは大学生が丁寧に説明するので、授業についでいけます。

| |
| 講師の先生が前で説明されて、簡単な操作方法を実際に使ってみる。 |
| |
| 説明しながらの操作が追いついていない時は、すぐに補助講師が駆け寄る。 |

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

< 幸田公民館 >

講座名	熊本大学メイクフレンズとの合同企画事業「夏だ！わくわく運動会だ！！食材を集めてごほうびパフェを完成させよう！」	
日時	令和5年7月30日（日）12時30分～16時	
場所・参加者数	幸田公民館 ホール 料理実習室	小学4・5・6年生20人 熊本大学生15人
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	・熊本大学教育学部に在籍する学生サークル「メイクフレンズ」が児童理解のために企画した幸田公民館との合同企画事業「夏だ！わくわく運動会だ！！食材を集めてごほうびパフェを完成させよう！」を世代の交流を図る講座の一つとして行った。 ・わくわく運動会は、日用品や段ボールや家庭用品を使っのチーム対抗の技巧走を数種目行い、児童は学生のアドバイスを受けて、楽しい中にも競争を楽しんだ。 ・パフェ作りは、フルーツとバニラアイスを盛り付けていき、食アレルギーにも配慮し、和気あいあいとした雰囲気で行い、オリジナルの美味しいパフェが出来上がっていた。	
成果と課題	【成果】 ・小学生の応募は、定員を超える人数があり、参加者の感想も「楽しかったので、また参加したい。」との感想が多く出され、より良い交流となった。 ・熊本市全体で19才～20代の公設公民館の利用率は、全体の1%にも満たない。また、大学生は、公民館がどのような活動をしているのか知らない多くの学生が答えている。（令和3年度市生涯学習課アンケート結果より） 学生が公民館講座に関わることは、小学生の児童にとって、比較的年齢が近い学生と心を通わせて取り組むことができ、このような取組は、事業そのものを充実させるだけでなく、大学生という若者に公民館への関心と理解を深める意味でも成果があった。 【課題】 ・応募者が多く、抽選となり参加できない児童が数名いて残念だった。	



〈わくわく運動会の様子〉



〈完成したパフェ〉



〈熊大メイクフレンズのメンバー〉

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

< 富合公民館 >

講座名	南区子どもチャレンジ公民館プランナー企画 「中無田閘門de川三昧」	
日時	令和5年10月7日（土） 午前10時～正午	
場所・参加者数	中無田閘門プレイパーク（南区富合町杉島長江地先）	小学4,5,6年生 42人 大学生 3人
取組の重点	②幅広い世代の交流を図る講座の実施	
内容	南区子どもチャレンジ公民館のプランナーの企画で秋のイベントとして恒例になりつつある中無田閘門プレイパークでのカヌー体験・環境学習・弓矢遊びを実施した。昨年度より大学生を補助講師として位置づけて幅広い世代の交流を推進するというねらいも継続して盛り込むこととした。 最終参加者 プランナー16人，一般参加 26人 このメンバーを3グループに編成し，プランナーがリーダーシップを発揮し，大学生 3人が見守りとフォローアップを行ったイベントである。	
成果と課題	【成果】 ・プランナーのフォローを大学生に担わせたことは人員確認などの折にしっかり機能していたし，年齢が近いので相談相手にもなってくれていた。 ・加勢川開発研究会（講師）の存在と子どもたちが育つ南区の水遺産や環境について学ぶ機会は今後も大切にしてほしいとの感想が保護者からあった。 【課題】 ・サポート大学生（補助講師）の確保を今後も考えているが，高校生を含めるかなど周知広報の在り方を検討する必要がある。	



<補助講師大学生>



<プランナーからの説明>



<カヌー体験の実際>

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

< 飽田公民館 >

講座名	無田口地区 スマートフォン講座	
日時	令和5年11月11日（土）、12月9日（土） 13：30～15：30	
場所・参加者数	無田口地域公民館	16人
取組の重点	③ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施	
内容	南区の目標としてデジタルデバйд解消があげられる。高齢者の方にとって、スマートフォン等使いこなすのが難しいと感じる方がおられ、いざ学ぼうとしても1人ではなかなか学べない。公民館の主催講座や携帯ショップ等、学ぶ場所に行くのも大変という方もおられる。 そこでスマートフォンの使い方講座を、無田口公民館が毎月行っているサロンに出かけて実施した。分からない時には大学生が支援を行い、11月がスマートフォン初級講座、12月がLINE講座と2回行った。	
成果と課題	○スマートフォンの電話機能のみ使っている方が多く、検索の仕方や地図アプリの使い方を初めて学ぶことができた。 ○普段分からない等気になっていても、なかなか学ぶ機会がなかった方にとって、困ったこと等質問して習う機会がもてた。 ○講師の話が分からない時は大学生に加えて、ささえりあと飽田公民館の職員も支援した。 △スマートフォンを持っていない、学ぶ必要がない方にとっては、毎月楽しみにしている恒例のサロンに参加できなかった。 △LINEを学んでも使う相手、機会が少なく、覚えても忘れることもある。	



講師による全体への説明



大学生が近くで見守る



分からない時は個別対応

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実
< 天明公民館 >

講座名	シニア初心者向け！やさしいスマホ講座	
日時	令和5年8月16日（水）	
場所・参加者数	天明公民館	16人
取組の重点	③ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施	
内容	スマートフォンやタブレットの普及とともに、これについていけない特に高齢者の方が、これらの端末の使い方がわからず困っている方が多い。その講習の機会を望む方が今でも多いので、そんな方々を対象として、デジタルデバйд解消のために今回の講座を企画した。	
成果と課題	ソフトバンクのスタッフ4人がついて個別に対応できたので、参加した方々からは、とても満足していただいた。スマホの便利さが分かったので、「日常生活に活かしたい」という感想や「もっとこのような機会を作ってほしい」との意見が多かったので、今後も機会を設けていきたい。	
写真		

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実

< 清水公民館 >

講座名	ワードで年賀状作り	
日時	令和5年11月16日(木)、11月23日(木)、11月30日(木) 全3回 午前10時～正午	
場所・参加者数	第1研修室	8人
取組の重点	③ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施	
内容	パソコン初心者を対象に、5月に「ワード入門講座」を実施した。 半年を経て11月に開催した本講座「ワードで年賀状作り」は、5月講座の延長として、「ワードのスキルを身につけ、オリジナルの年賀状を作り、12月までに投函する」ことを目標とした。	
成果と課題	○講師の一人は主に全体指導、もう一人は個別指導を受け持ち、役割分担をしながら講座を進めていた。 ○参加者は全て高齢者であり、持ち込んだパソコンの操作に関する様々な質問が出されたが、的確に応えることができていた。 ○家で予習復習をしたり、講座の開始1時間前に会場入りしたりするほど熱心な参加者が多くいた。 ▼年を重ねるごとに参加者が少しずつ減少している。	



全体指導をするワード講師



個別指導をするワード講師

【研究グループ③】 ライフステージに応じた学びと交流を促進する事業の充実
 < 北部公民館 >

講座名	健活教室	
日時	令和5年(2023年)4月～令和6年(2024年)3月 全24回 月2回(第2・4金) 午前11時～正午	
場所・参加者数	北部公民館、西里分館、川上老人福祉センター、 北部東コミュニティセンター	70人
取組の重点	③ICTを活用したデジタル化を実感できる講座の実施	
内容	コロナ禍で高齢者サロン、健康教室などが従来通りに行われておらず、高齢者や介護予防サポーター役割減少による身心機能低下が考えられる。そこで65歳以上の高齢者を対象に転倒予防・認知機能低下予防を目的とした体操などを熊本市高齢者支援センター「ささえりあ北部」との連携事業で行っている。 高齢者の参加ということで1か所に集まることが困難なので、熊本機能病院と菊南病院の健康運動指導士を講師として、オンライン(zoom)を活用した少人数の体操教室を継続して実施することで、地域の高齢者等のフレイル予防を図っている。	
成果と課題	成果としては、オンライン(zoom)の活用により、参加者の自宅近くの利用しやすい会場で、健活教室に参加することができており、どの会場も定員に達している。 課題としては、参加希望者が多いので、実施会場を増やしたいのだが、オンライン(zoom)配信のため、Wi-Fi等の環境が整った会場に限りがあり、希望者を全員受け入れることができなくなっている。Wi-Fi等の環境が整った会場が確保できるように書記官等にも積極的に働きかけていきたい。	



〈健康運動指導士からの
直接指導〉



〈オンライン(zoom)による
配信の様子〉



〈体力測定の様子〉